２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.23

幼児教育研修（記録の取り方）　　受講者数９３名

日時　令和３年９月１７日（金）～１０月８日（金）　オンデマンド研修

講師　和洋女子大学　人文学部こども発達学科　助教　田島　大輔氏

【内　容】

「子どもの姿を読みとり、明日につながる記録の取り方」

子どもの姿の読みとりと、保育の振返りに活かす記録の取り方を学ぶ。

【受講者の感想】

＊ 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- 保育記録用紙の様式を変えれば、書き方や内容も変わると思っていたが、子どもを見る視点を変えなければ記録は変わらないことを学んだ。～ができるようになるという援助のまなざしで子どもの成長を見るのではなく、子どもがいきいきと過ごせるための援助が必要という講義が印象に残った。
- 今までの日誌や乳児クラスの連絡ノートに、子どもの気持ちに寄り添っていきたいとよく書いていたが、抽象的だったと反省した。もっと深く子どもを理解し、遊びや生活の中で、子どもが何を伝えようとしているのかや何が育っているのかを見守り、次の保育に活かすことができる記録を書いていきたいと思った。
- 子どもの遊びや経験の読み取りや子どもの学びを可視化することの大切さ、さらに保育者の視点や評価を可視化し、曖昧な表現や事実だけの記録とならないように気を付けなければいけないことを学んだ。
- 子どものありのままの姿を記録することが子ども理解を深め、子どもへの関わり方を振り返る機会になることを学び、実用的かつ必要な研修だと感じた。
- 毎日書いている自分の記録を読み返した時に、子どもの姿が見えてくるだろうかと考えた。子どもの姿から、環境設定を行い、また、子どもの姿をみとる。この繰り返しを行い保育の質を向上させていかなければならないという話を聞き、ハッとした。私たち保育者は、援助の専門家として子どもを支えていくという気持ちを忘れずに取り組んでいきたい。
- 子どものつぶやきや興味・関心を肯定的に受け止め、深く見ようと意識することで子どもの姿が見える記録になることを学んだ。子どもが遊びの中で感じている面白さやわくわく感を捉え、エピソードを具体的に書けるよう努力したい。子ども主体の保育ができるよう、子どもと一緒に過ごして発見やときめきを共有したい。
- 記録を取ることで満足せず、記録を基に対話を重ねることが大事だと学んだ。園長や主任・クラスリーダーなど園職員と一緒に振り返ることで、子ども理解が深まり、よりよい保育につながると知った。

＊ ご意見・ご感想

- コロナウイルス感染症の関係で、オンデマンド研修に変更になったので、園内職員で視聴することができた。
- 正しい記録の取り方を学び、子ども理解や保育の振返りが大切だということを改めて感じた。
- 日誌や記録は、子ども理解を深めるための一つのツールということを理解できた。

２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.49

幼児教育研修（年齢別運動あそび　３歳児）　　受講者数５２名

日時　令和３年１１月２４日（水）　１５：００～１７：００

場所　竹ノ塚地域学習センター

講師　東京女子体育大学　児童教育学科　　講師　堀内　亮輔氏

【内　容】

～発達の特徴を踏まえた運動あそび～

３歳児の発達特性と経験しておきたい遊び（動き）について学ぶ。

【受講者の感想】

＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

・便利な社会になったことで３５年前と比べて子どもたちの運動能力が低下している。動く力のみならず、考える力、関わる力も同時に低下していることが懸念されていると知った。

・運動あそびは何かを育てるための手段ではないという冒頭の話を聞き、頭では分かっていたつもりでいたが、無意識に手段にしてしまっている部分もあることに気付いた。「体を動かすことそのものを楽しむ」中で「心と体が育つこと」を再認識できた。

・運動あそびというと、どうしてもこちらが見本を見せて遊び方を指示してしまうことが多かったが、子どもたちの考えや意欲を引き出すためには自由感を最大限保障できる環境や声掛けをしていくことが大切だと学んだ。

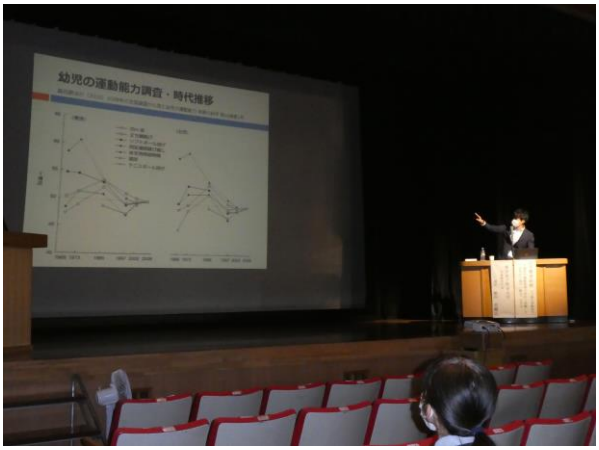
・運動あそびは体だけでなく、心やコミュニケーション、思考力も関係してくることを学んだ。

・「鉄棒ができるようになった」「なわとびがとべるようになった」ということばかりにとらわれず、心の育ちを意識して関わっていきたい。保育者の役割として、環境を整えていくこと、遊びを届けることを心に留め、子どもと共に運動あそびを作っていき、あそびを通していろいろな動きを経験させていきたい。

＊　ご意見・ご感想

・短時間であったが他園の先生と意見交換できたことは、自分の考えにプラスできるものがありよかった。（多数あり）

・グラフや表を使って様々なデータを見せてもらい、勉強になった。またレジュメの中にそれぞれの項目のまとめがあり、分かりやすく見やすかった。



２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.29

幼児教育研修（年齢別運動あそび　４歳児）　　受講者数５２名

日時　令和３年１０月１日（金）～１０月２２日（金）オンデマンド研修

講師　東京女子体育大学　児童教育学科　　講師　堀内　亮輔氏

【内　容】

～発達の特徴を踏まえた運動あそび～

４歳児の発達特性と経験しておきたい遊び（動き）について学ぶ。

【受講者の感想】

＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

・幼児期に身につけておきたい３６の動きについて学んだ。１つ１つの動きが子どもの成長に大切だと分かり、普段の活動の中に動きを取り入れたいと思った。またバリエーションも増やしていきたい。

・一人一人の得意なことが違うということを意識し、その中でも「仲間と繋がることがおもしろい！」と思えるような遊びの実践をしたい。

・ルールのある遊びの中では子どもたちと考えていきながらいつもと違うルールにしてみたり、オリジナルのルールをつくっていくことでコミュニケーションの力、考える力が培われるということを学んだ。

・運動能力を高めるために運動遊びを取り入れるのではなく、遊びそのものを楽しみ、面白いと思える結果として運動能力が高まり友達とのコミュニケーションにも繋がっていくことが分かった。

・「心が動けば自ら育ち合う」という言葉を聞き、心を動かすためには環境や遊びとの関係の中で「やってみたい！」「なってみたい！」と心を動かす「ヒト・モノ・コト」が大切であることが分かった。

・４歳児の子どもたち、一人一人のやりたいことが十分に楽しめているのか見取っていき、環境の見直し、設定をしていくと共に、友達と一緒に遊ぶことの楽しさも味わえるよう、保育者も楽しみ一緒に考えながら遊びを作っていきたい。

・今まで〇〇ができないからできるように援助しようと思っていたが、楽しく取組み、その延長でできるようなっていくという保育の進め方をしていきたい。また、自発的に運動あそびを楽しめる環境があまりないので、子どもたちと何がしたいのか話していきたい。

・普段から友だちや先生と一緒に遊んだり関わったりすることが楽しいと思えるような環境づくりがとても大切だと思った。また異年齢（特に年長）との関わりがさらにもてるようにしていきたい。

＊　ご意見・ご感想

・資料は絵や図式で分かりやすかった。また子どもの動きを画像に合わせて説明してくれたので理解が深まった。

・会場での研修ではなくオンデマンドの研修となったことは残念だったが、聴き取れなかったり、もう一度聴いてみようと思うところは再度聴くことができ、その点は良かった。

２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.28

幼児教育研修（年齢別運動あそび　５歳児）　　受講者数５３名

日時　令和３年１０月１日（金）～１０月２２日（金）オンデマンド研修

講師　東京女子体育大学　児童教育学科　　講師　堀内　亮輔氏

【内　容】

～発達の特徴を踏まえた運動あそび～

５歳児の発達特性と経験しておきたい遊び（動き）について学ぶ。

【受講者の感想】

＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

・幼児期に身につけたい３６の動きを意識しながら子どもたちが自分に合ったやり方を探し、挑戦したり、試したりできる環境を提供、設定できるよう、クラスだけでなく園全体で考えていけるようにしたい。

・環境設定だけでなく、「これはだめ」と規制してしまうことがあったので、自由感を保障していきたいと思う。その上で事故や大きな怪我にならないような配慮や環境の整備も忘れずに行いたい。

・なかなかマット、鉄棒などを取り入れることができなかったが、そこにとらわれず運動遊びを楽しめるあそびの環境を展開させていこうと思った。

・子どもたちも「できる」にこだわりをもっていることが多いので、できる事も大切だが、たくさん色々な経験をすることも大切であることを伝え、子どもたちから「やりたい」が出てくるような声掛けをしたり環境を整えていく。

・動きのレパートリーの中から今の子どもたちの生活の中で経験が足りていないと感じるものを意識して取り上げていく。また普段行っている動きもバリエーションを取り入れながらより楽しめるようにしていく。

・子どもたちと一緒に新しい遊びやゲームを考えていき、子どもたち自身が友達と遊ぶ中で意見を言い合ったり認めあったりしていけるようにしたい。

・与えられた運動目的だけの指導ではなく、自分たちで遊びを考え協力し合って作り上げる楽しさを保育者も共有したいと感じた。

・学校へ行くとどうしてもみんなと同じことができる体育になってしまうので、幼児期に楽しい運動遊びを保育者や友達と共に作り、運動の苦手意識がなく学校へ行けることが大切だと思った。

・ボール投げではフォームを気にしなくても良いと知り、今までは正しい投げ方（遠くへ飛ばせる方法）など細かく声をかけてしまっていたが、何か目標となるものがあれば自分で学ぼうとすると聞いて納得できた。

＊　ご意見・ご感想

・伝承遊びが消失していると講話の中にあったが、保育者自身も経験したことのない遊びが多く、引き出しの少なさに悩むことがあるため、より実践的な内容を知ることができると嬉しい。

・文章だけでなく図やイラスト、特に実際の子どもたちの遊んでいる様子などの動画が分かりやすかった。